Rotary 諫早西ロータリークラブ週報

2020－21
国際ロータリーテーマ
ロータリーは機会の扉を開く
Rotary
ホルガー・クナーク

END POLIO NOW

第1695例会　2021年 4 月21 日例会記録　NO.33　天候　晴れ

【本　日】会員数　４６名　出席　４０名　欠席１名　出席扱い（自粛）５名　免除０名　出席率　９７.８３％
【4／14】会員数　４６名　出席　４５名　欠席１名　（MU １名）免除０名　出席率　９７.８３％

会長の時間

「チョウの舞う季節」

野中 英己 会長

ひらひらと空を舞うチョウを見掛けると、心なしか日の光の温かさを感じます。爽やかな風にあたるために外出したくなるのもこの時期です。チョウ(蝶)は春の季語とされますが、実は春から秋にかけて見ることができます。種類によっては1年で世代交代を2回以上、多いものでは5～6回も行うといいます。世界中で約1万7600種類、日本では約260種類が確認されています。分布も広く、南極や広大な砂漠地帯など過酷な環境以外、ほとんどの地域で固有種を見ることができます。

日本でも多種多様なチョウを見ることができます。春先、菜の花やチューリップなどの鮮やかな花が一斉に咲き誇る中、蜜を求めて優雅に舞うように飛び交う姿が美しい。チョウは幼虫からサナギになり、さらに美しい成虫へと姿を変えます。その変わりゆく様子は、ギリシャでは不死の、キリスト教では復活の、仏教では輪廻転生（りんねてんせい）の象徴と考えられてきました。日本では、美しく羽ばたく姿は縁起が良いとされ、家紋にも使われています。平家の代表的な紋である、揚羽蝶紋(あげはちょうもん)は特に有名です。

幹事報告

【例会休会】
※諫早北ロータリークラブより
①と　き：令和３年４月２９日(木) 昭和の日
②と　き：令和３年５月　６日(木) 定款第７条第１節により

【お知らせ】
※ガナバー事務所より
①「第４２回ＲＹＬＡ開催中止のお知らせ」
②「アフリカ平和コンサートのご案内

会　長／野中 英己　　幹　事／宇土　久　　創立日／昭和60年2月20日　　認証日／昭和60年3月5日
例会場／平安閣 諫早サンプリエール(毎週水曜日)　〒854-0053 諫早市小川町71-1　TEL(0957)24-3907
事務局／諫早商工会議所内　〒854-0016 諫早市高城町5番10号　TEL(0957)22-3323
会報委員／草野 惠介・原田 典範・久保 泰正・清水　淳・吉田 健一郎
HP/http://isahaya-west.com　　E-mail/info@isahaya-west.com

委員会報告

記録保存委員会　清水 委員
歳祝い神事の写真を、参加会員の配布ボックスに入れています。

出席委員会　森 委員長
本年１月の当クラブの出席率は 98.9% で、2740 地区で２位でした。

宮本 会員
本日第一回目のコロナワクチンの接種を受けました。皮下注射のインフルエンザワクチンとは違い、筋肉注射のコロナワクチンは痛みや違和感もなく、会員の皆さんはなるべく受けられよう、お勧めします。

☺ スマイルボックス ☺

親睦活動委員会　佐藤 真太郎 委員

野中　英己君：まだまだ朝昼の温度差が 10℃程あり、体調には十分気をつけて頑張って下さい。
小島　礼文君：28日職場訪問宜しくお願いします。
佐藤真太郎君：なんもなかばってん!! スマイルします。

本日の合計（4/21）	累　計　額
￥4,000	￥1,085,300

◆会員卓話◆

小島 会員　『自己紹介』
①生まれは福岡で、小学３年生の時に諫早に引っ越してきて、祖父の影響もあり剣道を始めました。
②長崎西高校から帝京大学へ進学し、東京で就職しましたが、30歳で地元へ戻り、父の会社で保険の仕事を始め現在に至ります。

髙瀬 会員
『中国の石材加工について』
①インターロック社の紹介ビデオ
②日本のお墓に使う石材は、中国厦門産が過半を占めるようになっており、小さな石塔屋では、石材の加工をしたことがない、あるいは機材を揃えていない所も増えている。

ロータリーの友４月号　『卓話の泉』より

眼鏡の話

竹内光学工業(株)　竹内 良造

日本に眼鏡が伝えられたのは 16 世紀末です。徳川家康は海外からの献上品に含まれていた眼鏡を老眼鏡として使っていたそうです。国内での眼鏡作りも江戸時代から始まり、現在、日本の眼鏡フレーム生産量の 90% 以上を福井県鯖江市が占めています。

鯖江市を眼鏡の一大産地にしたのは、「国産の眼鏡の祖」と呼ばれる増永五左衛門。増永氏が大阪から職人を招き、眼鏡作りを習い、産地の基礎を築きました。1905 年に始まった眼鏡作りは、パーツごとに分業され、鯖江の町全体が一つの工場として機能するまでになりました。

かつての眼鏡のフレームは、銅や真鍮(しんちゅう)で作られていました。しかし戦争になり、金属を全て供出しなければならなかったため、セルロイドで代用されるようになりました。その結果、セルフレーム（プラスチック素材)ブームとなりますが、セルロイドは発火性が高いため、70 年ごろにはメタルフレーム（金属素材）の製造が主力となりました。

フレームが洋白(ようはく)（銅中心の合金）だと軟らかくさびやすいため、ステンレスにしたところ、硬くなったものの、さびる問題は解決しなかったため、入れ歯などに使われるニッケルベースの合金が開発されました。しかし、当時のメッキは使ううちに変色する欠点があり、金とパラジウムの合金メッキを開発、硬く変色しないものにしました。

80 年代ごろ、イブ・サン＝ローラン、グッチ、シャネルなどによるブランド化が一気に進み、さらにパソコンの普及でフレームデザインがデータ化されるようになりました。85 年ごろには、日本は眼鏡の品質、技術、素材で世界のトップクラスになっています。

金属の眼鏡は重いという欠点がありましたが、ロケット打ち上げのニュースからヒントを得て、チタンを使うようになりました。現在は、しなやかなばね性と復元力のあるチタン合金フレームが開発され、数々の眼鏡に使われています。

（第 2650 地区・福井県・鯖江 RC にて）